O7-041

親子の絆づくりプログラム'きょうだいがうまれた！'の効果の検証

原田　大輔[1,2]、木村美貴子[3]、倉谷　千尋[1]、小西　知子[4]、阪本　夏子[1]、安達　有梨[2]、森田　和美[3]、鈴木　志帆[3]、高橋　唯[3]、峯　真由美[3]、柏木　博子[1]

[1]地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　小児科、
[2]桃山学院大学　人間教育学部、[3]独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院　看護部、
[4]宝塚大学　助産学専攻科

【背景】親子の絆づくりプログラム（BP：Baby Program）は構造化された参加者中心型の子育て支援プログラムであり、参加対象により"赤ちゃんがきた！"（BP1、生後２～５か月の第１子を子育て中の母親）、"きょうだいがうまれた！"（BP2、生後２～５か月の第２子以降を子育て中の母親）、"幼児とともに！"（BP3、幼児を子育て中の母親）に分けられる。我々は2012年からBP1を、2019年からBP2を継続している。BP1についてはその効果を検証し、本学会でも複数回報告してきた。しかし現在までBP2の効果を検証した報告はないため、本研究の目的はBP2が参加者に与える影響について検証することである。
【方法】対象は2024年度にJCHO大阪病院主催のBP2に参加した母親41名および比較対象としてBP1参加者55名。プログラム参加前後に質問紙票による前向き調査を行った（回収率98.2%）。質問紙として、母親の育児ストレス、産後うつ傾向、愛着形成を評価するため、それぞれ「育児困難感I」、「エジンバラうつ病評価尺度」、「赤ちゃんの気持ち質問票」を使用した。統計学的解析はt検定で行い、$p<0.05$を有意と判定した。本研究はJCHO大阪病院医学倫理委員会で承認を得ている。
【結果】BP2参加者の大多数が「子どものしつけで迷う」ことや（97%）、「上の子の対応で困る」ことがある（98%）と回答した。「育児困難感I」はプログラム開始前にはBP1に比べてBP2で高く（16.2±4.6 vs. 19.2±5.8、p=0.011）、両プログラムとも参加後には低下傾向を認めたもののやはりBP1に比べてBP2参加者で高かった（15.4±4.7 vs. 17.6±4.7、p=0.028）。「エジンバラうつ病評価尺度」と「赤ちゃんの気持ち質問票」はBP1、BP2ともにプログラム間および参加前後での有意な変化は認めなかった。BP2プログラム参加後、全参加者が「育児について新しい知識」をとても（73%）もしくはまあまあ（27%）得られた、「自分の育児に」とても（76%）もしくはまあまあ（24%）役立った、プログラムにとても（85%）もしくはまあまあ（15%）満足したと回答した。
【考察】BP2に参加した２人目以降の乳児を子育て中の母親の多くは、上の子の対応やしつけで困っており、１人目の乳児を子育て中の母親（BP1参加者）より育児ストレスが高い現状が示された。BP2は全参加者がワークショップを通じて育児知識を獲得して、自分の育児に役立ったと感じ、プログラムに高い満足度を得たことが示唆された。

Presented by Medical*Online